



プロフィール

所在地	鹿児島県指宿市	活動分野	スポーツ
団体名	特定非営利活動法人いぶすきスポーツクラブ	主な対象	視覚障害
活動名称	サウンドテーブルテニス	団体の規模（団体の場合のみ）	事務局員数 23 名、会員数 340 名
こんな活動です	耳を澄ましてボールに集中！		
連携している団体等	公民館、行政（教育委員会、保健・福祉部局）		

活動の説明

①活動内容	<p>週に2回、1回3時間程度、サウンドテーブルテニスを実施しています。サウンドテーブルテニスはその名のとおり、音で判断しプレイします。会場はなるべく周りの音が聞こえにくい施設を確保し、雑音がプレイの妨げにならぬよう注意しています。</p> <p>活動のきっかけは、総合型地域スポーツクラブ設立の際、理念として掲げた「いつでも・どこでも・だれでも・だれとでも」を目指し、障害者にも楽しんでもらえるサークルを開設する為、障害者団体と話し合い、サウンドテーブルテニスサークルを開設しました。指宿市社会参加促進事業と提携し、会員を募ったところ、すぐに会員が集まり活発な活動が始まりました。</p> <p>現在も、県内大会はもちろんのこと、県内大会で優勝し、県外で行われる九州大会に出場する参加者もいます。また大会参加の段取りは参加者自身が行い、職員やヘルパーは相談役や頼まれたことを手配する等のフォローに徹し、自主性を尊重しています。</p>
②活動体制	<p>当団体の職員は活動場所の確保と卓球台準備等の会場設営を行い、社会福祉協議会のヘルパーが活動時の補助を行なっています。参加人数が多いときなどは、職員も補助に入り、参加者が時間を有効に活用できるような体制づくりに努めています。</p>
③活動の効果等	<p>年代、性別に関係なく誰でも参加できるスポーツとして、幅広い年代の方々が集い、世代間を越えた交流の場となっています。また、大会等へ参加することで他団体との交流も増え、コミュニケーションの場がさらに広がってきました。汗をかくことで、健康面の効果も上がっています。また、家に引きこもりがちだった方々が、積極的に外出するきっかけにもなっています。</p>

活動の様子

	
ボールの音に耳を澄ませます	手前に座っているヘルパーが補助をしています



プロフィール

所在地	沖縄県那覇市	活動分野	スポーツ
団体名	NPO 法人 日本バリアフリーダイビング協会	主な対象	視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害
活動名称	バリアフリーダイビング	団体の規模（団体の場合のみ）	職員 4 名、会員 200 名（指導員を含む）
こんな活動です	障害者の生涯スポーツ支援として、バリアフリーダイビング体験や大会運営、指導者養成等を実施。		
連携している団体等	社会教育関係団体、スポーツ団体、大学、専門学校		

活動の説明

①活動内容	<p>「バリアフリーダイビング（体験ダイビング、大会、指導者養成等を通して）」</p> <p>活動内容：</p> <p>①安全なプログラムの実施…ハンデを持っている個々の能力に合わせ、安全で楽しいダイビングができるようプログラムの構築をしている。</p> <p>②サポートダイバーの育成…障害者をバディとして支援するサポートダイバーを育成（約 120 名）</p> <p>③指導員の育成…全国でも少ない専門的な知識・技能を有した指導員を育成（約 60 名）</p> <p>④ハンディキャップ所持者指導員の育成…バリアフリーダイビング指導者として活躍できる場を作る（現在 1 名）</p> <p>⑤全国大会の実施…平成 10 年から全国大会を実施。（これまで 3,500 名あまりが交流した）平成 12 年からは地方大会も実施、運営にあたっている。</p> <p>⑥海外ツアーの実施…あるレベルに達した障害者の皆さんに平成 13 年からは海外ツアーを提供。（バリ島、サイパン、モルディブなどの海で約 200 名）</p>
②活動体制	<p>障害の種類は多種多様であり、場合によっては併発する場合もあり、海のスポーツにとっては危険な障害もある。このような中、多くの障害者が安全・安心にバリアフリーダイビングを体験していただくには、万全な活動体制が不可欠である。そこで、当組織においては専門委員会や実施本部をおき、関係機関との連携を密に行うとともに、活動地域に顧問ドクター、バリアフリーダイビング指導員を配置し万全を期して活動を実施している。</p>
③活動の効果等	<p>①障害者の生涯スポーツの支援</p> <p>②障害者のノーマライゼーション社会の実現</p> <p>③青少年の健全育成、福祉の増進、海環境の保全、地域の活性化等 に寄与している。</p>

活動の様子

	
海外ツアー in フィリピン（2015 年）	サポートダイバーとともに（第 9 回全国大会の様子）

プロフィール



所在地	沖縄県うるま市
団体名	特定非営利活動法人サポートセンターケントミ
活動名称	ケントミファミリーによる訪問ライブ活動等
こんな活動です	障がい者と健常者とが共になり、音楽を通じた訪問ライブや音楽祭などの交流を行っている。
連携している団体等	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、公民館、図書館、PTA、スポーツ団体、NPO 法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（沖縄市教育委員会・文化芸能課・障がい福祉課、沖縄県 障害福祉課）

活動分野	文化
主な対象	知的障害、様々な障害
団体の規模（団体の場合のみ）	会員数 10 名（役員）、 ケントミファミリー 14 名

活動の説明

①活動内容	<p>1. 「ケントミファミリーによる訪問ライブ活動」 障がい者と健常者で結成したケントミファミリーというバンドで毎週土曜日を基本として介護施設、障がい者支援施設、公民館等を訪問し沖縄の音楽を中心にしたライブ活動とその練習を行っている。（前年度ライブ実績 52 回、個人活動 40 回、音楽指導・練習 35 回） 人前に出て歌を歌い演奏することで、今まで人前に出ることが出来なかった障害のある人や引きこもっていた人たちが、自分たちでもできるという自信が付き前向きな気持ちになることで、社会に出ていくことができるようになっていく。また、近隣地域だけでなく、宮古島市などの離島や東京、埼玉、北海道、仙台、神戸、ハワイ、カンボジアなど多くの地域に訪問しており、訪問ライブで飛行機などの移動手段を積極的に使い沖縄から出ることで、さらに前向きな気持ちを醸成している。</p> <p>2. 「愛音楽（アネラ）音楽祭の運営と演奏（毎年 2 回実施）」 障がい者主体の音楽祭。ケントミファミリーを中心に会場設営、運営、演奏すべてに障がい者が携わり開催している。 ケントミファミリーの活動に賛同し、練習を始めている様々な障がいを持った人たちが沖縄県全島から集まり、多い時で 500 人近くの観客を前に演奏したり、歌を披露したりすることもある。音楽祭を通じて、CD をリリースするなど本格的な活動を行っているグループもある。</p>
②活動体制	10 名の役員とケントミファミリー（14 名）を中心に訪問ライブを実施している。音楽祭（アネラ音楽祭）においては、活動の趣旨に賛同した方々が運営や演奏に参加している。
③活動の効果等	年間 140 回もの発表の場の提供を受けて演奏しており、障がい者が主体となる音楽祭を通じて、多くの障がい者の社会参加に貢献している。

活動の様子

	
シニアセンター訪問（ハワイ/沖縄県人会）2016. 12 月	県障がい者スポーツ大会優勝祝勝会 2016. 11 月

プロフィール

所在地	北海道札幌市
団体名	札幌市特別支援教育研究連絡協議会
活動名称	レインボーピック、レインボーフェスティバル、札幌連バスケットボールチーム等
こんな活動です	みんな なかよく たくましく！
連携している団体等	小学校、中学校、特別支援学校、NPO 法人、行政（教育委員会）、一般社団法人

活動分野	学習
主な対象	知的障害、その他の障害
団体の規模（団体の場合のみ）	会員数 1,635 名（平成 29 年度）

活動の説明

①活動内容	<p>【レインボーピック】</p> <p>特別支援学級に通う児童生徒の活動の成果を発表する場として、市内特別支援学級の合同体育大会を開催しています。昭和 38 年度より開催しており、今年度は 55 回目の大会を実施しました。</p> <p>【レインボーフェスティバル】</p> <p>児童生徒の発表の場づくり、及び特別支援教育の現状や地域社会の中で生活する障がいのある児童生徒への正しい理解を図ることを目的に、児童生徒の絵画や工作、習字などの展示や製作した物品の即売も行っています。昭和 30 年度より開催しており、今年度は 61 回目の開催を 2 月に予定しています。</p> <p>【札幌連バスケットボールチーム】</p> <p>中学校・特別支援学校高等部の生徒から社会人でチームを結成し、現在、約 100 名が所属し活動しています。平成 8 年に全国障害者スポーツ大会「ゆうあいピック」が札幌市で開催されたときに、市内の中学校特別支援学級の生徒が中心となって、チームが結成されました。チームには、シドニーパラリンピックに出場した選手や世界大会に出場し海外遠征をした選手、全日本の候補になった選手もいます。</p>
②活動体制	<p>本協議会は市立特別支援学校、市立小中学校特別支援学級、通級指導教室を担当している教員及び、設置校の校長等を会員として構成しています。各行事等については、実行委員会を組織して運営していますが、その取組を通じて、担当者間の交流や互いの研鑽の場としても機能しています。</p>
③活動の効果等	<p>本協議会の活動を通じて、児童生徒や会員相互の交流が図られるとともに、障がいのある方の余暇の充実にもつながっています。また、行事等の運営などを通じて、特別支援教育担当者の指導力の向上にも役立っているほか、広く市民等にも活動を周知することにより、障がいのある児童生徒に対する理解啓発を図っており、障がい者の生涯学習や社会参加への支援につながっています。</p>

活動の様子



レインボーピック



札幌連バスケットボールチーム

プロフィール



所在地	宮城県仙台市
団体名	障害児（者）を守る日実行委員会
活動名称	みんな仲よし音楽交流会、子どもと市民のつどい運動会、私たちの作品展
こんな活動です	「子どもたちに元気と笑顔を！」
連携している団体等	小学校、中学校、特別支援学校、社会福祉法人、行政（教育委員会）、放送局、新聞社

活動分野	学習
主な対象	肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、知的障害、その他の障害
団体の規模（団体の場合のみ）	委員数 16 名

活動の説明

①活動内容	<p>仙台市立小・中学校の特別支援学級、特別支援学校の児童生徒を対象に、生き生きと楽しく交流できる場、力や活動を表現できる場として、次の3事業を開催している。</p> <p>「みんな仲よし音楽交流会」（平成28年度737人参加）は、音楽を聴いたり、一緒に歌ったり身体表現することを通して楽しく音楽に触れる機会となっている。子どもたちに様々な体験をさせるため、幅広いジャンルから企画・検討を重ねて出演者の交渉等を行っている。</p> <p>「子どもと市民のつどい運動会」（平成28年度432人参加）では、参加する子どもたちが市民ボランティアや他校の子どもと交流をしながら全種目に参加し、仲間と協力しながら楽しく競技を行っている。</p> <p>「私たちの作品展」（平成28年度173校から2,020点出品、一般市民等4,054人来場）には、多数の児童生徒の作品を展示しており、多くの参加校では校外学習として他校の作品を鑑賞する機会を設定している。また、テレビ局や新聞社等への働きかけ、地域情報紙への掲載、パンフレットやポスターの配布等広報活動にも努めており、一般の見学者も多数見られる。</p>
②活動体制	<p>平成29年度は16名の委員がすべてボランティアで運営している。また、在仙の大学生や、小学校区ごとに開設されている社会学級の学級生等に対しボランティア募集の声かけを行い、平成28年度は、「みんな仲よし音楽交流会」7名、「子どもと市民のつどい運動会」22名、「私たちの作品展」42名の方々当日のスタッフとしてご協力いただいた。</p>
③活動の効果等	<p>障害のある児童生徒にとっては、他校との交流を通して活動の幅が広がるだけでなく、将来にわたり音楽やスポーツ、芸術に親しみ、自ら楽しもうとする意欲の喚起につながっており、学校の教員にとっても情報交換や指導力向上に結びつく交流の場となっている。「私たちの作品展」では、来場者と校外学習の子どもたちが交流・親睦を図る様子も見られ、障害のある子どもや特別支援教育に対する市民の理解を深める啓発的な役割も担っており、毎年楽しみに来場する方も多く、年度を追うごとに増加する来場者数が関心の高さを示している。</p>

活動の様子

	
「みんな仲よし音楽交流会」	「私たちの作品展」

プロフィール

所在地	神奈川県相模原市
氏名	中澤 吉裕
活動名称	車いすテニスサークル「Smile」
こんな活動です	車いすテニスを通じて、「笑顔」で自分自身を表現しよう！
連携している団体等	スポーツ団体、企業・事業所

活動分野
スポーツ
主な対象
肢体不自由

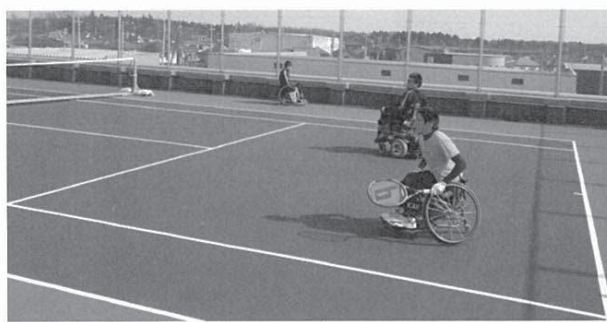
活動の説明

①活動内容	初心者や車いすテニスに興味のある障害者を対象として、月に1回のペースで車いすテニス体験会（講習会）を行っているほか、納涼祭や餅つき大会などのイベントを開催しており、毎回7～8人の障害者が参加している。
②活動体制	候補者が中心となって、障害者の保護者やボランティアと協力し、車いすテニスサークルを運営している。ボランティアについて相模原市テニス協会から、テニスコートの提供について相模原市内の民間企業と連携している。
③活動の効果等	障害者に体を動かす場や仲間づくりの場を提供しているとともに、サークル活動に参加した障害者が、車いすを自分でプッシュすることができるようになったり、養護学校へ一人で通学することができるようになるなど、障害者の自立支援にも繋がっている。

活動の様子



コーチの指導に耳を傾ける参加者たち



練習の様子

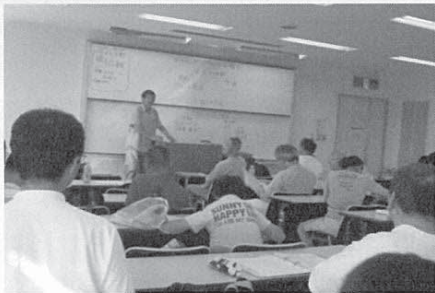

プロフィール

所在地	静岡県静岡市	活動分野	学習
団体名	「静岡市あおい講座」運営委員会	主な対象	知的障害
活動名称	静岡市あおい講座	団体の規模（団体の場合のみ）	事務局・運営委員数 14 名、講師数 12 名（一部運営委員兼） 受講者数 58 名（平成 29 年度）
こんな活動です	よく働き、よく学び、よく遊ぶ		
連携している団体等	特別支援学校、生涯学習センター、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、行政（静岡市教育委員会、静岡市市民局生涯学習推進課）、静岡手をつなぐ育成会、静岡市特別支援教育進路指導協議会、静岡大学		

活動の説明

①活動内容	<p>知的障害がある人たちの学校卒業後における生涯学習の一環として実施する講座の企画・運営に当たるとともに、講師として講座の担当と受講者の学習活動支援を行う。</p> <p>本講座は、50 年前に市内中学校特殊学級（現特別支援学級）の卒業生と保護者の願いに応じてスタートした。その後青年学級（青年学級振興法による認可）を経て、現在に至る。</p> <p>活動日は毎月 2 回を基本に、1 日 6 時間、年間 25 日、延べ 150 時間程度の学習活動を実施する。内容は、仕事とくらし方やスマホ・ケイタイ安全教室など知識・教養、室内スポーツなど運動・レクリエーション、クラフト教室など趣味的活動、調理実習と献立・食事マナー、見学・旅行等と多様である。受講者の年齢層は 20 歳代から 60 歳代、就労形態も企業から自立支援等事業所と幅広い。一斉学習のほかに、年代別のグループ編成や自主的なクラブ活動を取り入れるなどして、受講者の主体性の向上と学習活動の充実を目指している。</p>
②活動体制	<p>受講者、講師、保護者、学生ボランティアの各代表及び生涯学習センター担当で運営委員会を組織する。委員会に代表、庶務、会計を置き事務を行う。4 半期ごとに開催する運営委員会のもと、毎月の具体的な学習計画を立案し講座の運営に当たる。各講座は学習内容や活動に応じてそれぞれの講師が担当する。内容によってその分野の関係機関等に依頼する。また、大学との連携のもと毎回数名の学生ボランティアが受講者の学習活動を支援する。</p>
③活動の効果等	<p>受講者のおよそ 2 割が年間を通じ皆出席、欠席日数 3 日以内は 7 割ほどである。継続して参加することで、学習活動への見通しや要望・意見をもつなど積極的、自主的な取組みが見受けられる。仲間づくりや余暇活動の広がりと同時に、日常生活や就労面での安定化にも寄与している。また、地域の関係者に講師を依頼したり他グループとの交流活動を行ったり学習活動展を開催したりして地域社会の理解促進に努めている。</p>

活動の様子

	
一斉学習での受講風景	グループごとの調理学習

プロフィール

所在地	静岡県浜松市	活動分野	スポーツ
団体名	浜松ポッチャ倶楽部 COOL	主な対象	肢体不自由
活動名称	浜松ポッチャ大会の開催等	団体の規模（団体の場合のみ）	36名（うち、障がい者21名、家族親戚6名）
こんな活動です	ポッチャで楽しく自己実現！！		
連携している団体等	小学校、中学校、特別支援学校、公民館、スポーツ団体		

活動の説明

① 活動内容	<p>2003年に初代会長、故鈴木三枝子が静岡ポッチャ協会主催の講習会で出会った「ポッチャ」の魅力に惹かれて倶楽部を設立。翌年から多くの障がい者に自己実現の場を提供するために「浜松ポッチャ大会」を開催し、現在まで14回続いている。審判員の技術など運営面にも妥協せず、単独倶楽部が主催する大会としては全国にも例を見ない規模の大会を運営し、その大会レベルが評価され全国各地から選手が集まり、毎年ハイレベルな熱戦を繰り広げている。第12回より「ふれあいポッチャ大会」を同時開催し選手と来場者との交流を図る。</p> <p>2016年からは、倶楽部を応援して下さる企業との出会いから、2つ目の大会「ふじのくにポッチャ選手権大会」もスタートさせ、より高い試合運営を目指し、複数回の審判講習を行うなど、スタッフ育成にも一層力を注いでいる。</p> <p>統廃合により地域に譲渡された旧小学校の体育館などを拠点に、地域の方々との交流を広げるための体験会「ねえねえ、ポッチャやろうよ！」も開催し、競技や障がいへの理解向上にも努めている。</p>
② 活動体制	<p>市内の学校や公民館、スポーツ団体などからの要望に応え、福祉体験の場やスポーツ交流の機会を設け、積極的に関わりを広げるとともに、競技の周知や一緒に活動する会員の獲得にも努めている。</p> <p>中・高・大学などのボランティア団体へ働きかけ、継続的なサポート提供を受けられる体制づくりにも努めている。</p> <p>月2回をめぐりに定期的な練習会を続けることで、いつでも誰でも参加しやすい環境作りも進めている。</p>
③ 活動の効果等	<p>創設15年を迎え、地道な地域との交流活動が実を結んだことと2020年の東京パラリンピック招致も相まって、近年より多くの施設、団体から交流の声がかかるようになって来るとともに、関わってくれる学生や社会人も増えている。</p> <p>今後も更に充実した大会運営や交流活動を続け、より多くの方々に継続的に倶楽部に関わっていただける体制づくりを進めて行きたい。</p>

活動の様子

	
浜松ポッチャ大会での真闘勝負！！	ふれあいポッチャ大会で「出世大名家康くん」と交流

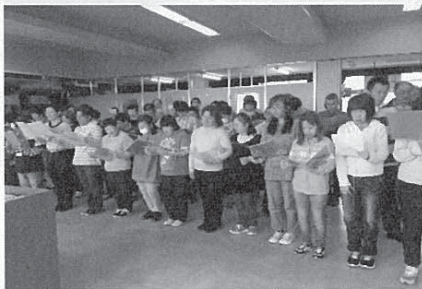

プロフィール

所在地	京都府京都市	活動分野	学習
団体名	一般社団法人 京都手をつなぐ育成会	主な対象	知的障害
活動名称	青年学級（日曜教室，学習会，クラブ活動）	団体の規模（団体の場合のみ）	会員 611 名
こんな活動です	仲間で寄り合い，学び合う		
連携している団体等	小学校，中学校，高等学校，特別支援学校，公民館，社会教育関係団体，NPO 法人，社会福祉法人，企業・事業所，行政（教育委員会，保健・福祉部局）		

活動の説明

① 活動内容	<p>昭和 38 年に読み書きの基本を学ぶ場として「夜の学習会」を開始以降，学校を卒業し社会人になってからも，仲間で寄り合い学びあう場所が欲しいとの要望が高まり，昭和 45 年，多くの先生方のご支援を受け，クラブ活動や社会体験等を組み入れた余暇支援学習活動「日曜青年学級」としての取組を開始しました。以来「日曜青年学級」は，原則第 1・3 日曜日に開催し，平成 25 年には 1000 回を数えるなど，継続的に障害のある人の生涯学習活動をしています。学習の対象は音楽，ものづくり，書道，茶道，野外活動，英語，パソコンなど多岐にわたっており，障害のある人の自立と社会参加に大きく寄与しています。</p>
② 活動体制	<p>一般社団法人 京都手をつなぐ育成会は，知的障害者が心身共に健やかに活動し，社会・経済・文化・芸術等の様々な分野の活動に参加する機会が与えられるとともに，その環境，年齢及び心身の状況に応じた必要な福祉サービスが，地域において総合的に提供されることを目的として活動してまいりました。</p> <p>青年学級部会，相談部会，研修部会の他，京都市内全ての行政区に支部を設け，「ふれあいの絆」の理念の下，地域での支援活動も展開しています。</p>
③ 活動の効果等	<p>青年学級の取り組みは，障害のある人の自立と社会参加に大きく寄与してまいりました。50 年にわたり継続的な取組ができたのは，多くの支援者はもとより，地域の皆様のご理解とご協力の賜物であり，深く感謝しております。今後とも当会の本人活動の中核的な取組として，1500 回，2000 回を目指して継続して取り組んでまいります。</p>

活動の様子

	
コーラスの練習風景です。	春の遠足でカレー作りに挑戦しました。

プロフィール

所在地	東京都中央区
団体名	大同生命保険株式会社
活動名称	全国障害者スポーツ大会特別協賛企業
こんな活動です	四半世紀にわたり、大会に特別協賛するとともに、役職員がボランティアとして参加し、大会の盛上げに協力。
連携している団体等	大同生命が所属するT&D保険グループ各社および同社の関係団体である法人会、納税協会

活動分野	スポーツ
主な対象	肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、知的障害、その他の障害
団体の規模（団体の場合のみ）	職員 6,959 名

活動の説明

① 活動内容	<p>大同生命は、創業90周年(平成4年)を機に、障がい者スポーツの普及・発展に貢献するため、全国障害者スポーツ大会(※)の前身である全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)の第1回東京大会から、四半世紀にわたり毎年継続して大会への特別協賛を行っている。</p> <p>また、大会の盛上げに協力するため、開催地の役職員をはじめグループ各社や関係団体の役職者等が、大会式典への参加や競技観戦を通じて選手を応援するとともに、メイン会場に設置する特設ブースの運営ボランティアとして大会に参加。特設ブースでは、全国から集まった選手や応援に来られた方々とゲームやイベントを通じて交流できる「ふれあいの場」を提供している。</p> <p>なお、特別協賛を開始した平成4年以来、本年10月に開催した第17回全国障害者スポーツ大会(愛顔つなぐえひめ大会)までの協賛金の累計金額は22億円、大会への参加者数はのべ1万人超となっている。</p> <p>※全国障害者スポーツ大会とは</p> <p>障がいのある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とした国内最大の障がい者スポーツの祭典で、毎年、国民体育大会とともに開催されている。</p>
② 活動体制	<p>大同生命では、特別協賛を開始した平成4年に役職員による自主的な企業市民活動組織として「大同生命社会貢献の会」を設立し、募金・寄付活動のほか、活動交通費の補助など役職員のボランティア活動の参加を支援している。</p> <p>また、会社も役職員の活動を支援するため、ボランティア休暇制度を整備している。</p>
③ 活動の効果等	<p>障がいのある方との交流を通じて、大同生命の役職員自身が元気や勇気を貰うとともに、障がいや障がい者スポーツに対する理解を深め、ボランティア意識の醸成に繋がっている。</p> <p>この全国障害者スポーツ大会への支援に加え、大同生命は、日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナーとして当協会が主催するジャパンパラ競技大会などへのサポートや、障がい者アスリートの雇用など、障がい者スポーツのさらなる普及・発展にむけた取組みも行っている。</p>

活動の様子

	
全国から集まった選手や応援の方々と賑わう大同生命ブース	ゲームを通じてふれあう選手と大同生命のボランティア

プロフィール

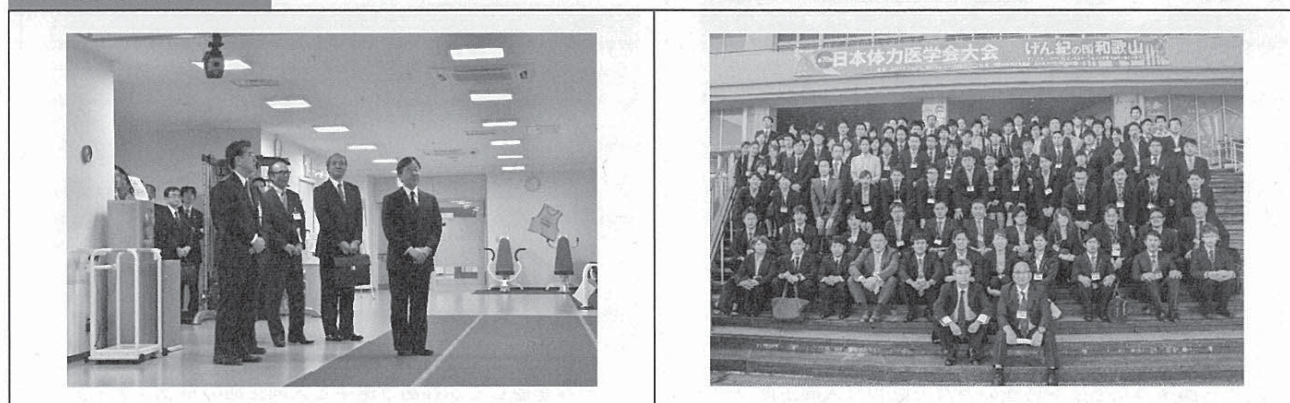
所在地	和歌山県和歌山市
氏名	田島 文博
活動名称	障がい者スポーツにおける医科学サポート
こんな活動です	メディカルチェックをすればスポーツは万能薬
連携している団体等	スポーツ団体、病院・保健所、行政（保健・福祉部局）

活動分野
スポーツ
主な対象
障がい者・高齢者

活動の説明

①活動内容	<p>1994年 産業医科大学医学部卒業、医師免許取得 同年-現在 大分国際車いすマラソン大会出場選手の研究に従事</p> <p>1992-1994年 ニューヨーク州立大学バッファロー校リハビリテーション医学教室 Assistance prefeffor として障害者の運動生理学など研究</p> <p>1994-1999年 日本リハビリテーション医学会障害者スポーツ委員会委員</p> <p>1995-1999年 大分国際車いすマラソンクラス分け委員</p> <p>2000-現在 日本障がい者スポーツ協会医学委員会委員</p> <p>2002年 障害者スポーツ用メディカルチェックシート作成に参加</p> <p>2003年 和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座教授</p> <p>2004-現在 日本障がい者スポーツ協会医学委員会メディカルチェック部会部会長</p> <p>2008-現在 和歌山県立医科大学スポーツ・温泉研究所所長</p> <p>2009-現在 和歌山県立医科大学みらい医療推進講座げんき開発研究所所長 文部科学省認定特色ある先端科学研究施設に選ばれる</p> <p>2012-現在 文部科学省認定障がい者スポーツ研究拠点に選ばれる</p> <p>2014-2017年 和歌山県立医科大学附属病院副院長</p> <p>2015年 皇太子殿下の御行啓を賜る。御先導役を拝命。日本体力医学会会長</p> <p>2016-現在 日本パラ陸連医学委員会委員長</p> <p>2017年 日本リハビリテーション医学会副理事長（障がい者スポーツ担当を含む）</p>
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座教授として障がい者スポーツ医学研究体制整備 日本障がい者スポーツ協会医学委員会副委員長として日本代表選手のメディカルチェック体制整備 日本リハビリテーション医学会副理事長として障がい者スポーツの普及発展に寄与 みらい医療推進センター長および那智勝浦町附置スポーツ温泉医学研究所所長としてパラアスリートの基礎生理学的研究と競技力向上に寄与。
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者スポーツ関連研究英文論部50編 文部科学省認定障がい者スポーツ研究所としてS評価をいただいた。 日本人パラリンピック代表戦選手が医学的問題で参加困難となる事例がなくなった。 障がい者スポーツ関連国際シンポジウムと国内学会を5回開催

活動の様子



プロフィール

所在地	愛知県名古屋市
団体名	日本車いすツインバスケットボール連盟
活動名称	文部科学大臣杯争奪 日本車いすツインバスケットボール選手権大会等開催
こんな活動です	重度障がい者でもできる、工夫された競技スポーツ
連携している 団体等	高等学校、スポーツ団体、NPO 法人、企業・事業所、 病院・保健所、行政（開催県・開催市）、大学

活動分野	スポーツ
主な対象	四肢に障がいや麻痺のある方
団体の規模（団体の場合のみ）	約 380 名 （連盟役員・登録選手・審判員・ クラス分け分類部等）

活動の説明

① 活動内容	<p>車いすツインバスケット競技は、重度の障がい者でもできるスポーツとして、日本で発祥した競技で、35年の歴史があり、国内では36都府県50チームのほか、チーム登録はしていないが余暇活動やリハビリ訓練の一環として各地で実施されている。</p> <p>毎年、地方大会、ブロック大会、日本選手権、全スポ等でのデモンストレーションゲーム等の開催</p> <p>日本選手権の場合は、36都府県50チーム（1チーム約20名の選手・コーチ等と介助者等約10名）が地区予選を行い、12チームが日本選手権に出場する。</p> <p>また、四肢に障がいや麻痺があることにより、スポーツをすることや社会参加することなど、諦めている障がい者が、同じ障がいを有している者の勇姿を見ることにより、前向きな姿勢に変える動機付けとなる。</p> <p>競技活動をするにともない生活力に自信が付き、地域行事への参加や就労などへ進展していくもので、重度障がい者の自立・社会復帰を果たす役割も担っている。</p>
② 活動体制	<p>日本選手権の場合は、日本車いすバスケットボール連盟・公益財団法人日本バスケットボール協会・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が主催となり、開催地域の団体（行政・企業・スポーツ団体・大学・高校等）が支援団体となり実施</p>
③ 活動の効果等	<p>大会等を通して、最重度の障がい者のスポーツの普及拡大、国民に対する障がいの理解促進、当事者の健康の維持向上・ADLの向上・QOLの拡大などが増進され、ADLの自立や社会的自立が困難な四肢に障がいや麻痺のある重度障がい者の社会参加の促進に繋げている</p>

活動の様子



【円内シューターのシュート】

平成29年6月に第30回記念大会を開催！



【上シューターのシュート】

2組の上バスケットと下バスケットがあります。

プロフィール

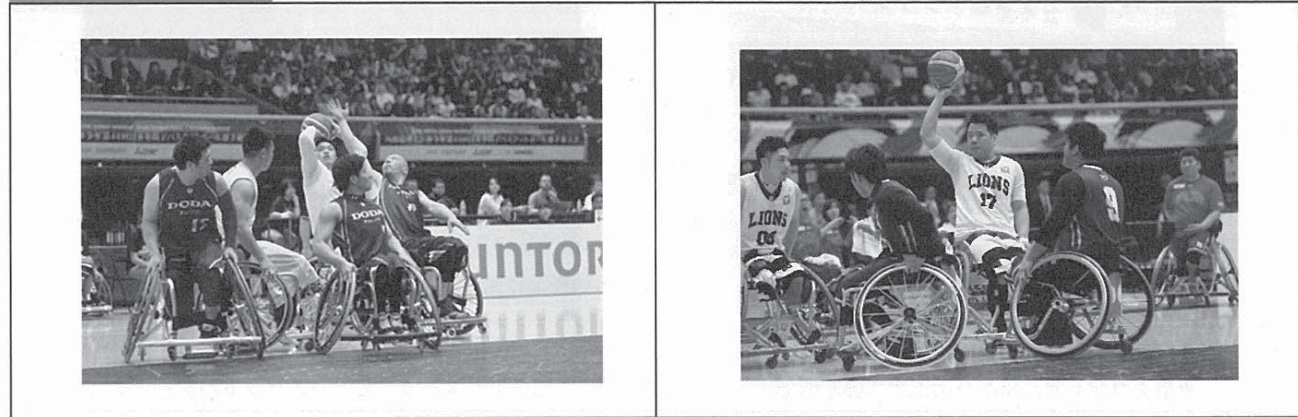
所在地	東京都港区
団体名	一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟
活動名称	内閣総理大臣杯争奪 日本車椅子バスケットボール選手権大会等開催
こんな活動です	クラブチーム日本一を決める、国内の車いすバスケットボール競技最高峰の大会
連携している団体等	スポーツ団体

活動分野	スポーツ
主な対象	肢体不自由
団体の規模（団体の場合のみ）	登録選手数 約 700 名

活動の説明

① 活動内容	<p>全国 70 チーム、約 700 人の選手が日本車いすバスケットボール連盟に登録している。その中から全国 10 ブロックの地方予選を勝ち抜いた 16 チームにより日本一のクラブチームを決定する車いすバスケットボールにおける日本最高峰の大会である。大会期間中、同会場で体験講座も実施している。来場した一般観客に競技用車いすに乗ってもらったり実際に車いすバスケットボールを体験してもらったりすることで、障がい者への理解、競技の振興にも努めている。</p>
② 活動体制	<p>大会実行委員会を組織し、運営本部、審判、T0、クラス分け、ボランティア、運営施工などの各部門が大会にかかわっている。</p>
③ 活動の効果等	<p>40 年以上にわたり日本選手権を開催することで、車いすバスケットボール競技における風物詩として定着している。年々、チーム関係者ではない一般の観客者数が増加している。また取材に訪れるメディアの数も増加しており、それに伴いテレビのスポーツニュースで取り扱われる機会も増えている。車いすバスケットボールを通じて地域で自立して生活する障がい者が一般の目に触れる機会が増えることで、さらなるバリアフリー社会構築のきっかけとなることが期待される。</p>

活動の様子



プロフィール

所在地	東京都台東区	活動分野	スポーツ
団体名	日本障害者フライングディスク連盟	主な対象	すべての障害者
活動名称	全日本障害者・高齢者フライングディスク競技大会 開催、全国での指導者養成講習会開催 等	団体の規模（団体の場合のみ）	会員 約 2,000 名
こんな活動です	フライングディスクを通して、すべての人に感動を！		
連携している 団体等	日本障がい者スポーツ協会		

活動の説明

①活動内容	<p>1992年～2000年 全国知的障害者スポーツ大会（ゆうあいピック）で正式種目として実施（大会運営補助）。</p> <p>1998年～現在 全日本障害者・高齢者フライングディスク競技大会を開催（当連盟主催）。 毎年950名を超える様々な障がいの選手が参加し、盛大に開催されている。</p> <p>2001年～現在 全国障害者スポーツ大会で正式種目として実施している（大会運営協力）。</p> <p>1998年～現在 当連盟公認指導者制度を制定し、公認指導者養成講習会を開催。現在まで合計375回開催し、合計10451名が受講している。公認指導者は、現在約6382名（H29.3月末現在）。</p> <p>その他、各地域障害者フライングディスク協会設立（49ヶ所）補助、各種障害者スポーツ関連の講習会への講師派遣等、障害者フライングディスク競技の普及活動を行っている。</p>
②活動体制	<p>各地域障害者フライングディスク協会と連携し、大会運営、指導者養成講習会の開催にあたっている。</p> <p>また、大会運営にあたっては、ボランティアの協力が欠かせないため、ボランティア向け審判講習会なども行っている。</p>
③活動の効果等	<p>これまでの普及活動により、全国で選手数が増加している。全国障害者スポーツ大会においては、陸上競技の次に出場選手が多い競技となった。また、若年層から高齢者まで幅広い愛好者がおり、生涯スポーツとしても認知されてきている。</p>

活動の様子



全日本障害者・高齢者フライングディスク競技大会



指導者養成講習会

プロフィール

所在地	京都府京都市
氏名	桑原 教彰
活動名称	「京都府下の認知症他の障害を有する方の才能の発掘支援事業」
こんな活動です	誰もが持っている優れた才能を発掘して輝こう！
連携している団体等	社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（保健・福祉部局）

活動分野	文化
主な対象	知的障害

活動の説明

①活動内容	<p>京都府向日市にあるグループホーム「てらど」に於いて、たとえ高齢者であっても、また認知症で記憶障害を有していても、昔に嗜んだお茶やお華を本格的に学べる場や、自分の人生を介護スタッフや家族と振り返る場を提供することでQOLの高い生活が送れること、また認知症ケアの質が向上することを、当時のグループホーム代表の土井輝子氏と共に示してきた。認知症の方はエピソードとしての記憶は残らなくても、情動の記憶は残ることに着目し、その人にとっての非日常、特別感を演出することで、学んだことを情動のレベルで積み重ねていくことで、認知症の方の人生を豊かにすることができるのである。</p> <p>京都府丹後保健所とは、丹後圏域の2市2町にある23施設の福祉作業所からなる「はあとショップたんご連絡会」を通して、知的障害や精神障害を有する作業所の利用者の方と、デザインを学ぶ京都工芸繊維大学の学生が共に学び教えあう中で、利用者の方の創作物からデザインの才能を発掘する「たんごアート&デザイン」という事業を推進してきた。利用者の方の創作物が新たな価値となり得ることを知ることで、利用者の方自身や支えるスタッフ、家族に自己肯定感、満足感が得られ、コミュニティにウェルビーイングがもたらされることを示した。</p>
②活動体制	<p>京都府向日市：グループホーム・てらど、機能強化型在宅療養支援診療所・土井医院 京都府丹後圏域：丹後保健所、京丹後市、はあとショップたんご連絡会、京丹後市障害者事業所製品販売連絡協議会</p>
③活動の効果等	<p>認知症になっても、一生涯学び続けることで生き生きとした生活が送れる、また軽作業に従事するのも難しい知的な障害がある方でも隠れた才能が発掘されることで本人が嬉しく思い、また家族を始めとする支える人たちの喜びに繋がる、ウェルビーイングに溢れる社会の実現に繋がる活動である。</p>

活動の様子

	
グループホームでの本格的ないけばなレッスン	障害を有する方と学生とのデザイン価値共創

プロフィール


所在地	神奈川県相模原市
氏名	川口 吾妻
活動名称	『障害児のためのマルチメディア療育支援ソフト』の開発
こんな活動です	芸術とICTの力で障害児者を支援
連携している団体等	杉並区立こども発達センター、(株)キャドセンター、東京女大学、国立障害者リハビリテーションセンター、各地の特別支援学校、知的障害教育校 PTA 連合会

活動分野	文化
主な対象	知的障害 その他の障害

活動の説明

① 活動内容	<p>平成 15 年より女子美術大学での教育・研究活動の一環として、「芸術と情報先端技術」を活用しての、障害者支援、療育支援、特別支援教育のためのアプリケーション（以下アプリ）開発に取り組んできました。産官学連携で、大型タッチパネルディスプレイを使った障害児療育用システム「たっちゃんのコネク島」の開発。また平成 26～28 年度にかけては、文部科学省から研究開発の委託を受け、知的障害、自閉症など発達障害の児童生徒を対象に、防災教育、科目教育に活用できるタブレット型端末用アプリを開発などを行ってきました。</p> <p>具体的には就学前のお子様向け『たっちゃんのコネク島』シリーズ、防災教育用アプリ『スキナのセレク島』シリーズ「まるばつクイズメーカー」、「バウンドボックス」、「すききらいカメラ」。防災&コミュニケーションツール「チップス」を無料でリリース。その他、数々のプロジェクト活動を通して、障害児者の自立支援、障害の理解、療育支援のためのアプリ開発を中心に活動しています。</p>
② 活動体制	<p>女子美術大学川口吾妻が取組責任者として中心となり、発達障害や知的障害の支援を専門とする大学・研究機関。杉並区立こども発達センターといった障害者施設と連携協力。さらに ICT プログラム開発に実績のある(株)キャドセンターとの産官学協働で、障害特性に対応した教材開発を行なっています。連携協力校として全国各地の特別支援学校、教育委員会、全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会にもご協力頂いています。</p>
③ 活動の効果等	<p>1. 新たなコミュニケーション手段の提供 障害者自らが災害から身を守る意識を育み、簡便な操作で周囲の人に理解してほしい自分を表現できるアプリを開発することができ、特別支援学校の先生方を中心に活用頂いています。</p> <p>2. 効果の高い学習教材開発用ツールの提供 児童生徒の個性や興味に合わせて画像を取り込み、教材作成できるため、これまで難易度が高かった教師による電子教材作成と共有が可能となりました。iPad 用アプリとして無料で公開しており、広く全校に普及し始めています。活用事例も報告されています。</p>

活動の様子

 	  
<p>『たっちゃんのコネク島』シリーズ 「直感的な操作」「失敗がない」「共感する経験」 子どもを伸ばしていく3つのコンセプトで作られています。</p>	<p>『スキナのセレク島』シリーズ 「まるばつクイズメーカー」、「バウンドボックス」、「すききらいカメラ」 (※iPad 専用のアプリです。)</p>

プロフィール

所在地	大阪府大阪市東淀川区
氏名	大手 裕子
活動名称	「BA+Cプロジェクト」 (ボーダレスアート+コミュニケーション プロジェクト)
こんな活動です	知的障害のある方の表現活動に学生が関わり、展示や、ワークショップの実施、共働による制作など多様な形の展開を14年にわたり継続して行っています。
連携している団体等	社会福祉法人

活動分野
文化
主な対象
知的に障害のある方

活動の説明

① 活動内容	<p>障害者福祉施設の利用者の皆さんと大阪成蹊大学学生が表現活動を通して関わることにより、創作の場作り、造形的に新しい試み、商品としてのデザイン、制作や展覧会、ワークショップの実施等、多様な活動を展開してきた。支援対象人数は、年度ごとに8~10名程度。2017年度は14年目となり、その間主に3施設と連携してきた。関わりがあった障害のある皆さんはのべ約50名。</p> <p>2004年~2007年 社会福祉法人一羊会 武庫川すずかけ作業所 (兵庫県西宮市)</p> <p>2008年~2011年 社会福祉法人あらぐさ福祉会 障害福祉センター あらぐさ (京都府長岡京市)</p> <p>2012年~現在 社会福祉法人ノーマライゼーション協会 社会就労センター西淡路希望の家 (大阪市東淀川区)</p>
② 活動体制	<p>活動の枠組みとしては大阪成蹊大学芸術学部の学部共通科目「プロジェクト演習」(学部の理念である「芸術による社会貢献を目指す」を授業内で実践するための独自の取り組みとして開学以来、多数の内容により開講を続けている。BA+C プロジェクトは当初より現在に至るまで継続して開講している)の授業として活動を行っている。受講対象者は、芸術学部の全コースの3、4年生のうち希望者。現在は、3年次と4年次の2期にわたって継続しての活動も可能。活動にかかる費用は、授業で実施していることから、学部の予算の中で枠が設定、確保されている。</p>
③ 活動の効果等	<p>①授業枠の中で、大学を活動場所として定期的に表現活動が行えることは、施設では、利用者の日常外の特徴ある活動として位置づけることができ、一定の評価を示すことができる。また施設によっては、以前はこのような表現活動を定期的に行うことができていなかったところもあり、本プロジェクトとの関わりがきっかけとなって表現活動が定着した施設もある。</p> <p>(例：あらぐさ福祉会 (京都府長岡京市)、特定非営利法人ほっと (吹田市) 等)</p> <p>②障害のある人本人にとっては、普段の日常と離れた環境で、学生と共に活動を行うということが大きな刺激となって、精神的にも身体的にも活発になり、生活面でも意欲的になられたという効果がある。また、表現活動の面においても家や施設において普段制作されているものと、学生との関わりの中で制作される作品とに顕著な違いがある方もあり、隠れた可能性を引き出すことにも繋がっている。</p>

活動の様子



教室前の地面にチョークで巨大な街の絵を共同制作。



描かれたカラフルな絵を元にプリント生地を制作。



プロフィール

所在地	東京都江東区	活動分野	文化
団体名	株式会社りそなホールディングス りそなグループ Re:Heart 倶楽部	主な対象	視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、 知的障害、病弱
活動名称	全国特別支援学校文化祭	団体の規模（団体の場合のみ）	16,860名
こんな活動です	真心込めた手作り表彰式で、めいっぱい楽しんでもらう		
連携している 団体等	全国特別支援学校長会、全国特別支援学校文化連盟、 行政（文部科学省）		

活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 1994年の全国特別支援学校文化連盟の設立にあたり文化振興のため第一回から現在まで継続して文化祭(全国の特別支援学校の幼児、児童、生徒の日頃の文化活動の成果を発表する場)の開催を支援しています。本文化祭には各都道府県より推薦された造形・美術、書道、写真の3部門の作品が出品され、優秀賞が選出されます(文部科学省の後援を2016年度から頂き文部科学大臣賞が新たに創設されました)。 2008年から、本文化祭への支援活動の一環として、りそな銀行・埼玉りそな銀行・近畿大阪銀行の本社において入賞作品の展示会を開催し、来社される多くの方たちにご覧いただいています。 2013年から、りそなグループ役員・従業員のボランティア団体「Re:Heart 倶楽部」の発足を機に、受賞者の皆さんにりそなグループ 東京本社にお越し頂き、ボランティア有志による手作りの表彰式を開催しています。 表彰式では、ご家族など関係者が見守る中、全国から集まった受賞者お一人おひとりに表彰状や盾、記念品をお渡しします。表彰式後は、社員食堂で交流会を開催、作品を見ながらお話をお聞きし、楽しいひと時を過ごします。その後、役員室や会議室等、銀行本社内の見学を実施しています。
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> 表彰式は、りそなグループの役員・従業員ボランティアが運営しています。 駅から会場までの案内や受付、会場での誘導などをボランティアが担い、緊張の面持ちで来場した受賞者やご家族の皆さんにリラックスして表彰式を楽しんで頂けるよう明るくご案内します。 受賞者の皆さんや保護者、学校関係者の皆さんに安心して参加していただけるよう、ボランティアメンバーは事前講習会で車いすの介助方法や手話などを学んでいます。車いすで実際に動き回るために必要なスペースや坂道を下りるときの恐怖心を知ることや、手話での自己紹介や分かりやすい案内などを学ぶことで、より適切な対応が可能となり、参加した皆さんとの交流も深まっています。
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 受賞者のご家族や先生からは「一生の思い出になった。子どもたちの自信につながった」とのお声を頂いたり、春には進学の報告を新たに描いた絵とともに送ってくれた受賞者もいらっしゃったり、ボランティアスタッフのモチベーション向上にもつながっています。

活動の様子

	
表彰状の授与	交流会の様子

プロフィール



所在地	青森県青森市
団体名	青森県立保健大学「発達保障研究会」サークル
活動名称	飛び出せ!オープンカレッジ in 青森
こんな活動です	学生と交流を通して、様々なことにチャレンジしよう!
連携している団体等	社会教育関係団体、参加者の家族、グループホームの世話人、障害者就業、生活支援センター、大学

活動分野	学習
主な対象	知的障害
団体の規模（団体の場合のみ）	発達保障研究会サークル 現在 9 名所属

活動の説明

①活動内容	<p>18 歳以上の知的障害者を対象に、学習だけではなく、大学生との交流を通して相互理解を育むことをねらいとした活動である。学びの場として、年に 2 回、日常生活に活かせる実践的な講座とリフレッシュを目的とした講座を行っている。参加者 2 名に対して、学生 1 名のボランティアをつけ、参加者全員が楽しく学ぶことができる工夫を行っている。学習だけではなく、近隣の公園でのお花見交流会（4 月）、大学祭に招待（10 月）、クリスマス会（12 月）など、学生との交流を目的とした活動も行っている。</p> <p>本活動は、知的障害のある参加者が、自分の苦手なことやできないことは、学生ボランティアと一緒に行うことによって、達成できることを知り、様々なことにチャレンジしながら豊かに生きていくことを目的に行っている。そのため、プログラムを企画する際には、参加者の要望を取り入れながら、講座を担当する講師との事前打ち合わせにも力を入れている。</p>
②活動体制	<p>①基本的な活動体制は、発達保障研究会サークルの学生 9 名（顧問：西村愛）である。</p> <p>②講座の講師は、社会教育センターからの紹介や学内の教員である。</p> <p>③活動への理解や参加者を広げるために、顧問が、障害者就業・生活支援センターのワーカーと連携をとりながら、活動内容を紹介した冊子を配布してもらい、適宜、見学に来てもらっている。</p> <p>④参加者が安心してプログラムに参加する体制として、参加申込欄に支援者や保護者が本人の様子や体調について記載する欄を作成し、活動に参加するうえでの留意点について相互確認を行っている。</p>
③活動の効果等	<p>①参加者からの積極的な発言や要望が増えてきたこと。（学んで楽しい!）</p> <p>②参加者の楽しみの場であること（学生と仲良くなりたい!!）</p> <p>③共に生きる活動の実践（障害者の支援をする側としての学生と支援してもらう立場の参加者という固定した関係性の変化。参加者に会いたいからボランティアを希望する学生もいる）</p>

活動の様子

	
参加者に大人気の音楽の講座	自分にできることを学ぼう（救急救命講座）

プロフィール

所在地	東京都小金井市	活動分野	学習
団体名	オープンカレッジ東京運営委員会	主な対象	知的障害
活動名称	オープンカレッジ東京	団体の規模（団体の場合のみ）	スタッフ約40名 受講生、毎年約60名
こんな活動です	日常生活に必要な“考えるわざ”を学ぼう		
連携している団体等	社会福祉法人、大学		

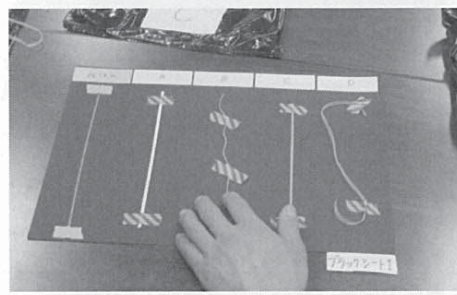
活動の説明

①活動内容	<p>東京学芸大学で開催している主に知的障害のある人々を対象にした大学公開講座です。1995年からスタートし、今年で23年目です。最初は東京学芸大学附属養護学校（現特別支援学校）の卒業生を対象とした継続教育の一環としてスタートしましたが、現在では、神奈川、千葉、埼玉といった近隣各県だけでなく、福島、新潟、京都、北海道などからも参加する受講生もいます。</p> <p>例年、9月から12月にかけて講座を4回、同じ年度の3月に講座の再学習機会である活動発表会を開催しています。受講生は毎年、変動はありますが、60名程度が登録し、1回の講座には40名程度が参加しています。受講生には知的障害のある人々だけでなく、大学生や定型発達の人々も含まれています。</p> <p>現在の講座テーマは「考える“わざ”を学ぶ」であり、日常生活で、特に自己決定に関わる力を身に付けることを目的に講座を行っています。2017年度の講座は、身近にあるものの性質について科学実験を通して明らかにしていく「サイエンスラボ」、食材の比較を通して地域の特徴を知る「ディスカバーWorld」、日常生活で起きる問題（電車が遅れた時どうする等）を自分で解決する方法を身に付ける「日常生活の“考えるわざ”」、働く場所、生活する場所などの選び方を知る「大事なものを選択する“わざ”」といった4講座を実施しました。</p>
②活動体制	<p>オープンカレッジ東京運営委員会は大学教員、特別支援学校教員、社会福祉法人職員、特例子会社職員、学生など、約40名で構成されています。月に1度運営委員会を東京学芸大学で開催し、講座の作成に取り組んでいます。講師は基本的には運営委員会に所属しない大学教員に依頼しています。受講生の参加費のみで運営しています。</p>
③活動の効果等	<p>全ての講座で、受講生が設定した学習課題に自ら取り組んでいるか、評価しています。また、全講座、講座の最後にアンケートをとり、講座そのものの評価（楽しかったか等）と、次に何を学びたいかを調査しています。</p> <p>「いつでも学べる、どこでも学べる」という生涯学習の理念を基に、大学だけでなく、地域の公民館などで取り組めるよう、学習内容のパッケージ化を進めています。</p>

活動の様子



講座の様子：グループに分かれて活動しています。



「ディスカバーWorld」講座の教材：麺の比較を行っています。

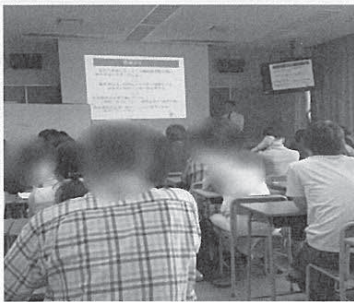

プロフィール

所在地	大阪府堺市	活動分野	学習
団体名	大阪府立大学研究推進機構 21世紀科学研究センター 教育福祉研究センター 大阪府立大学オープンカレッジ	主な対象	18歳以上の知的障害者
活動名称	大阪府立大学オープンカレッジ	団体の規模（団体の場合のみ）	学生スタッフ9名 顧問教員1名
こんな活動です	学生主体で運営している知的障害者の通う大学です！		
連携している団体等	社会福祉法人、企業・事業所		

活動の説明

① 活動内容	知的障害者の大学進学率が低いという理由から、1998年より知的障害者のための大学（教育を受ける場）としてオープンカレッジ（通称：オプカレ）を実施している。①人権（教育）を保障し、②当事者の変化（発達）を保障することにより、③大学として地域社会貢献する、という3つの理念に基づき、大阪府内に居住する18歳以上の知的障害者に向けて、現在は2年間のプログラムを行っている。オプカレの講義はおおむね毎月第一日曜日に、大阪府立大学中百舌鳥キャンパスで開講しており、午前午後それぞれ1コマずつ（90分）実施している。講義内容は、「学生」（オプカレでは、知的障害のある受講生を「学生」と呼ぶ）の希望に基づいて、福祉、美術、歴史など幅広い分野となっている。講師は大学教員や当該テーマに精通した社会人であり、スタッフ（大阪府立大学学生有志）との事前打ち合わせにより、「学生」に合わせた講義を提供している。また、座学だけでなく遠足、修学旅行、学園祭参加などの各種イベントでの交流や社会参加を行っている。これまでに参加した学生数は、140名である。（1期生：24名、2期生：29名、3期生：25名、4期生：25名、5期生：16名。現在（2016-2017年度）は、第6期生：21名）
② 活動体制	スタッフが、教職員と連携しながら企画・運営を行っている。スタッフは、現在「総括」「講師係」「サポーター係」の3つの係に分かれている。講座開催時には「サポーター」と呼ばれるボランティア（大阪府立大学学生、他大学学生、社会人）が参加している。「学生」それぞれにサポーターがついて、学習をはじめ、活動全般を支援する体制をとっている。
③ 活動の効果等	オプカレに参加した「学生」は、高校卒業以降も学ぶことの楽しさを知り、オプカレ以外の場で、オプカレで学んできたことを生かすことや、新たな学びの場を見つけるなど学びの幅を広げている。また、スタッフやサポーターも「大学で学ぶ」ことの意味を考え、知的障害のある「学生」とともに成長している。そして、本学の活動に賛同した大学関係者を中心に、1999年度には武庫川女子大学、2000年度には桃山学院大学が続いて開講し、その後全国的な広がりを見せている。

活動の様子

	
6期生の講義（健康と病気予防）の様子	6期生の修学旅行（和歌山）での集合写真

プロフィール



所在地	島根県松江市
団体名	島根大学 知的に障がいのある人のオープンカレッジ in 松江実行委員会
活動名称	知的に障がいのある人のオープンカレッジ in 松江
こんな活動です	知的障がいのある人の教育の機会や発達の可能性を保障する取り組みです。
連携している団体等	行政（教育委員会）、松江市社会福祉協議会、松江市手をつなぐ育成会

活動分野	学習
主な対象	知的障害者
団体の規模（団体の場合のみ）	学生スタッフ 13 名 社会人スタッフ 6 名 (2017 年 12 月現在)

活動の説明

①活動内容	<p>2008 年 10 月から 2 年を 1 期とした「知的に障がいのある人のオープンカレッジ in 松江」を島根大学松江キャンパスにて開催している。毎年開催時期は 10 月と 3 月であり、それぞれ 2 日間ずつ開講している。オープンカレッジの受講生の条件は、18 歳以上の知的に障がいのある人であり、かつ島根大学の正門まで公共交通機関等を利用して来ることのできる人（家族や支援者の協力は問わない）である。</p> <p>オープンカレッジは、全体講義と選択講義を組み合わせしており、1 日目は午前が全体講義、午後は選択講義、2 日目の午前は全体講義、午後は交流会という流れを基本としている。また毎年 3 月には工場見学や博物館見学などの課外学習に出かける。講義は座学と演習を用意しており、選択講義は受講生自らが選択して受講することができる。講義や交流会等を通じて、受講生同士、受講生と学習サポーター、受講生と学生・社会人両スタッフ等がつながりを持って心がけている。講義の内容や課外学習の訪問先の選定の際は、毎回オープンカレッジの際に実施する受講生アンケートに記載されている希望を参考にしている。</p>
②活動体制	<p>実行委員会は、島根大学福祉社会コース学生らによる学生スタッフと、松江市社会福祉協議会、松江市手をつなぐ育成会の社会人スタッフにより構成されている。全体の企画は学生スタッフが中心となり、受講生募集、学習サポーター募集、講師探し、講義内容の調整まで幅広く取り組んでいる。実行委員会では、社会人スタッフから学生スタッフの活動に対する助言等がある一方で、講師探しや学習サポーター募集等の協力を依頼する場になっている。当日の運営は実行委員会のメンバー全員で行っている。</p>
③活動の効果等	<p>就学猶予・就学免除により義務教育の機会が制限されていた受講生や、卒業後に学ぶ機会がほとんど無かった受講生にとって、実現が難しかった「学ぶ」ことに対するニーズの充足につながっている。活動を通じて、受講生同士、受講生と学習サポーター、受講生と学生スタッフ等の人と人とのつながりができるため、受講生が地域生活を送る上でのネットワークに広がりが出てきている。学生スタッフや講師、学習サポーターらにとっては、障害理解を深める機会になっている。</p>

活動の様子

	
参加者全員での集合写真	全体講義の様子

～お知らせ～

文部科学省HPでは、障害者の生涯学習の推進に関する情報を公開しています！
是非ご覧ください！

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index.htm

障害者の生涯学習

検索

or

